

感染症にも注意しよう！

松尾 汎

昨年の正月早々、インフルエンザに感染したことをご報告しました。毎日の診療で感染者を診察しており、その際にマスクと手洗いなどを徹底していたつもりでしたが、感染してしまいました。昨年のインフルエンザ感染は猛威を振るい、過去最高の患者数と報道されていました。

さて、今年は、そのインフルエンザもさることながら、1月末になって、新型コロナウイルス感染症が中国から始まり、英国籍クルーズ船内で拡がり、3月1日現在、アジアから世界へと拡がっています。今が日本での流行の分岐点といわれ、多くの集会・イベントが延期・中止され、全国の小・中学・高校に「休校」が要請されました。分岐点とは、「一気に拡がるか、徐々に拡がるか」の分岐であり、感染を阻止できるのではなく、「感染すること」に注意(手洗い・咳エチケット・人混みの回避など)しつつ、少しでも「拡大」と「重症化」を防止するように努めることです。「がん」や脳卒中・循環器病などと共に肺炎も高頻度で、医学・医療も確かに発展してきましたが、未だ発展途上であり、これからも多くの疾患を克服し続けなければなりません。

人類の歴史に、感染症は太古からありましたが、病原体が細菌であることは 1870 年頃にパスツール(フランス)やコッホ(ドイツ)が明らかにし、ウィルスは 1898 年にベイエリンク(オランダ)が提唱し、1935 年にスタンリー(アメリカ)によって電子顕微鏡で存在が確認されました。わずか 100 年余りに過ぎず、それまでは「病原体による疾患」とは判らず、多くの犠牲者が出ていました。病原体である細菌は 10 マイクロメートル(マイクロ=100 万分の 1)で、ウィルスは 0.1 マイクロメートル(細菌の 100 分の 1)で、赤血球(7 マイクロメートル)や日本人の髪の毛の太さ(80 マイクロメートル)と比較して、極めて小さいことが判ります。細菌感染には抗菌薬が有効で、ウィルス感染には抗ウィルス薬もありますが、どちらも「変異」を起こして、常に人類を危険に曝してきました。「がん」や脳卒中・循環器病と共に、克服すべき疾患です。

皆さんも、今、大変な時でしょうが、ともに知恵を出し、助け合って、どんな疾患も克服できるよう尽力して参りましょう！